

第13回  
中小企業景況調査報告書

(平成19年4月～6月期)

平成19年7月調査

平成19年8月15日

鎌倉商工会議所

中心市街地サポートマネージャー：鈴木基之

## 第 13 回 中小企業景況調査結果

1. 調査目的 この調査は、鎌倉市内の中小企業の景況を調査、その動向を分析して鎌倉市内の事業所の経営に役立つ資料を提供することを目的とする。

2. 調査対象 鎌倉市内の中小企業特に小規模企業（製造業・建設業・最寄品小売業・買回品小売業・飲食業・サービス業）の中から 150 企業を抽出する。

	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業	合計
			最寄品	買回品			
調査件数	15	15	23	30	37	30	150
回答数	12	14	20	26	28	24	124
回答率	80.0%	93.3%	87.0%	86.7%	75.7%	80.0%	82.7%

3. 調査方法 郵送によるアンケート方式(一部経営指導員による聞き取り)

### 4. 調査項目

(1) DI の状況について

自社の状況      売上額      資金繰り      採算      従業員数

(2) 設備投資について

(3) 経営上の問題点について

5. 調査期間 平成 19 年 7 月 2 日～平成 19 年 7 月 31 日（7 月 1 日現在で記入）

平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 6 月 31 日

調査時点は四半期毎に実施。（7 月・10 月・1 月・4 月）

### 6. 調査データについて

(1) DI 指数：Diffusion Index(ディフュージョンインデックス・景気動向指数)の略。

各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値で、企業の景況感の判断に使用する指数。

(2) データ「本年と前年の数値を対比」

< 計算例 >

「やや増加」・「やや好転」50% 「変わらず」20% 「やや悪化」・「やや減少」30% の場合。  $DI = 50\% - 30\% = 20\%$

### 7. 経営状況 DI 推移

経営状況	良い	普通	悪い	DI
第 1 回 平成 16 年 7 月調査	11(14.9%)	30(40.5%)	33(44.6%)	29.7
第 2 回 平成 16 年 10 月調査	18(20.9%)	35(40.7%)	33(38.4%)	17.5
第 3 回 平成 17 年 1 月調査	14(15.6%)	43(47.8%)	33(36.7%)	21.1
第 4 回 平成 17 年 4 月調査	16(18.8%)	43(50.6%)	26(30.6%)	11.8
第 5 回 平成 17 年 7 月調査	18(21.2%)	45(52.9%)	22(25.9%)	4.7
第 6 回 平成 17 年 10 月調査	30(23.0%)	61(47.3%)	38(29.5%)	6.2
第 7 回 平成 18 年 1 月調査	34(25.8%)	66(50.0%)	32(24.2%)	1.6
第 8 回 平成 18 年 4 月調査	43(33.6%)	55(43.0%)	30(23.4%)	10.2
第 9 回 平成 18 年 7 月調査	36(29.3%)	54(43.9%)	33(26.8%)	2.5
第 10 回 平成 18 年 10 月調査	38(29.2%)	61(46.9%)	31(23.8%)	5.4
第 11 回 平成 19 年 1 月調査	37(27.6%)	64(47.8%)	33(24.6%)	3.0
第 12 回 平成 19 年 4 月調査	43(31.2%)	66(47.8%)	29(21.0%)	10.2
第 13 回 平成 19 年 7 月調査	39(31.5%)	61(49.2%)	24(19.4%)	12.1
3 ヶ月後の見通し	16(12.9%)	82(66.1%)	26(21.0%)	8.1

# 調査結果の概要

## 1 総合 「景況感は停滞、採算・資金繰り予想以上の悪化。来期マヰスか。」

業況 DI はプラス10.5 と1.6ポイント悪化、先行きもマヰス7.8 と景気後退局面か。

設備投資は低調（OA機器（10.5%）と機械設備(8.1%)、車両運搬具（7.3%）建物等(2.4%)）

今回（平成19年7月調査）は、業況DIが前回（平成19年4月調査）に比べて1.6ポイント悪化しプラス10.5と一服か。売上額DIは6.8ポイント改善しプラス8.5、採算DIは6.3ポイント悪化しマヰス12.5を示した。資金繰りDIは3.6ポイント悪化、マヰス5.7を示し採算割れをなど懸念。

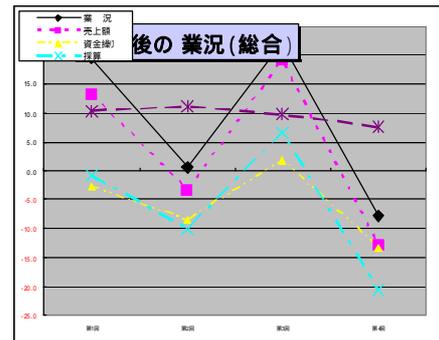
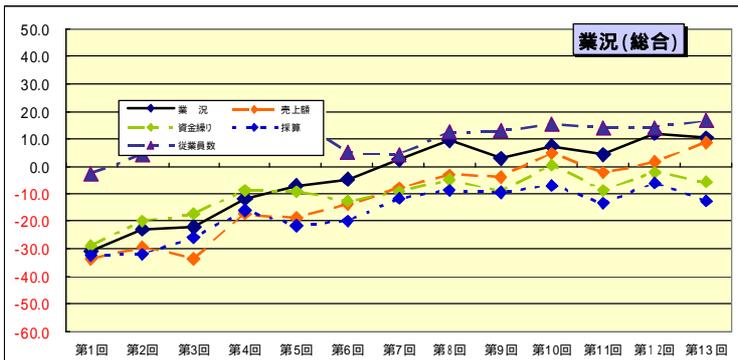
3ヶ月後の業況見込みDIがマヰス7.8と今期に比べて18.3ポイント悪化の見通しを示している。主要4指標である、来期の売上見込みDIもマヰス12.8と今期に比べ21.3ポイント悪化し、来期採算見通しDIもマヰス20.6と今期に比べ8.1ポイント悪化した。資金繰りDIもマヰス13.2と7.5ポイント悪化している。売上額・採算・資金繰りは悪化し、景況感は大幅に悪化でマヰスに転じる見通しを示す。

- ・ 雇用状況：人手の不足感は前期比で上昇した。従業員数DIは、21.8ポイント上昇してプラス33.3と労働力の不足感が強まる。来期に向けては売上高の悪化を受けて少しだけ弱まる見通しです。業種別では、製造業プラス33.3、飲食業プラス25.0、サービス業33.3で人手不足感が強い

- ・ 設備投資の動向（今期は、OA機器、機械器具、車両運搬具などに投資が見られた。）

設備投資の動向は、OA機器を導入したのはサービス業が4社、最寄品小売業が3社、製造業と建設業や飲食業が各2社と、前回の2社から11社に増加した。・機械設備は、飲食業4社、最寄品小売業3社など、合計10社(前回3社)(2.2%から8.1%の企業へ5.9%も増加)が設備投資した。・車両運搬具は、建設業が4社、飲食業とサービス業で各2社などの合計9社(3.6%から7.3%と3.7%増加)となっている。建物等は買回品小売業が2社、建設業の1社、の合計3社(2.9%から2.4%の企業)がそれぞれ設備投資を実施した。

来期はOA機器5社から3社(サービス業で2社、など)・機械設備5社(飲食業で4社)・車両運搬具3社(建設業2社、最寄り品小売業1社など)・建物等は5社(飲食業で3社、建設業と最寄品小売業で各1社)が投資予定をしている。OA機器は今期と来期を合せ12.9%(16社)、機械設備(15社)、建物等8社、車両運搬具12社の企業が投資計画している。



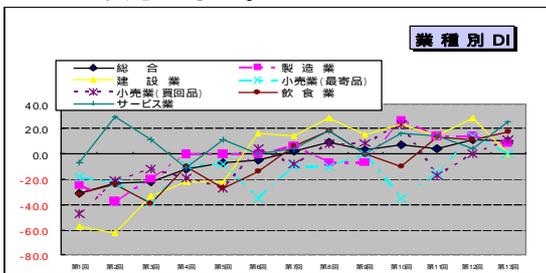
業況(総合)	対前年比													3ヵ月後			
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第10回	第11回	第12回	
業況	-31.0	-23.1	-21.9	-11.8	-6.9	-4.6	2.4	9.6	2.8	7.4	-4.1	12.1	10.5	19.5	-0.5	22.0	-7.8
売上額	-33.9	-29.2	-33.6	-17.5	-18.5	-13.7	-7.9	-3.2	-4.0	4.6	-2.2	-1.7	8.5	13.1	-3.3	19.0	-12.8
資金繰り	-28.9	-20.0	-17.5	-9.5	-9.9	-12.5	-9.2	-5.0	-9.0	0.6	-8.8	-2.1	-5.7	-2.8	-8.6	1.7	-13.2
採算	-32.3	-32.1	-25.8	-16.0	-21.6	-19.7	-11.5	-8.8	-9.6	-6.8	-13.6	-6.2	-12.5	-0.7	-10.1	6.5	-20.6
従業員数	-2.7	4.3	7.8	11.4	16.9	5.1	4.1	12.5	12.7	15.3	14.4	14.4	16.7	10.3	11.2	9.8	7.5
設備投資の動向																	
OA機器	9	7	7	7	8	6	12	10	7	15	11	2	13	9	11	5	3
機械設備	2	3	3	2	7	11	11	8	5	9	10	3	10	9	11	2	5
車両運搬具	4	4	8	5	4	8	6	2	6	12	4	5	9	6	4	5	3
建物	1	2	0	1	2	4	4	4	5	6	9	4	3	8	2	4	5
付帯施設	4	2	4	3	4												
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		4	2	0	0	0	1

## 2 業種別 (製造業は停滞、建設業・最寄品小売業の悪化。改善は買回品小売業、飲食業、サービス業。設備投資は建設業に等一部に動きが見られた。)

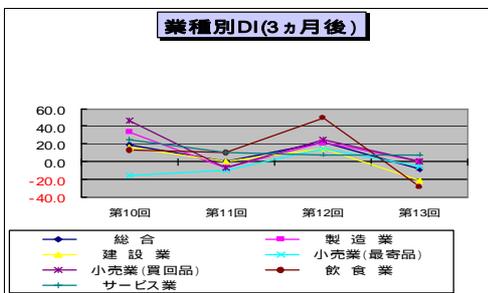
製造業は悪化、建設業・最寄品小売業はかろうじてプラスにとどまる。買回品小売業は2期連続改善したが先行き採算割れ等を懸念。飲食業は大幅に改善したが先行き不安材料要因多くマイナスに転落か。サービス業は、3期ぶりに改善、先行き不安要因多くマイナスを懸念。全業種2期連続プラスを示すが先行きに懸念材料多く低迷しマイナス幅を拡大してゆく見通しを示す。設備投資に一部に明るい兆しをす。

業種別DIで、改善したのは、買回小売業、飲食業、サービス業の3業種。悪化したのは製造業、建設業、最寄品小売業の3業種。製造業は一服感で景気後退局面か。建設業は、大幅に悪化かろうじてプラスを維持。最寄品小売業は、3期ぶりに悪化。買回品小売業は、2期連続改善しプラス11.5。飲食業は、6.1ポイント改善してプラス17.9。サービス業は3期ぶりに改善し9期連続プラスを維持する。

3ヵ月後の見通しは、売上額・資金繰りが悪化し業況DIが大幅に悪化する見通し。製造業はプラス0.0と一層の悪化懸念。建設業は21.4ポイント悪化しマイナスに転落か。最寄品小売業はマイナス5.0悪見通し、買回品小売業もプラス0.0と不透明感を示す。飲食はマイナスに転落か。サービス業は3期ぶりに改善も不安感を示す。



業種別	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回
総合	-31.0	-23.1	-21.9	-11.8	-6.9	-4.6	2.4	9.6	2.8	7.4	4.1	12.1	10.5
製造業	-25.0	-37.5	-20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	-6.7	-7.1	26.7	14.3	14.3	8.3
建設業	-57.1	-62.5	-33.3	-22.2	-22.2	16.7	14.3	28.6	15.4	23.1	14.3	28.6	0.0
小売業(最寄品)	-18.2	-23.1	-38.5	-9.1	-8.3	-35.0	-9.5	-9.5	0.0	-35.0	-15.0	14.3	0.0
小売業(買回品)	-46.7	-21.1	-11.8	-18.8	-26.7	4.2	-7.7	8.3	8.7	23.1	-17.2	0.0	11.5
飲食業	-31.6	-23.8	-39.1	-9.5	-26.7	-13.3	6.7	18.5	0.0	-9.7	13.8	11.8	17.9
サービス業	-7.1	29.4	11.1	-11.1	11.1	0.0	3.8	18.5	0.0	16.0	14.3	3.8	25.0



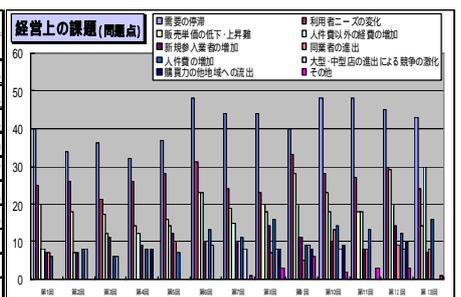
業種別	第10回	第11回	第12回	第13回
総合	19.5	-0.5	22.0	-7.8
製造業	33.3	-7.1	21.4	0.0
建設業	15.4	0.0	14.3	-21.4
小売業(最寄品)	-15.0	-10.0	14.3	-5.0
小売業(買回品)	46.2	-6.9	24.1	0.0
飲食業	12.9	10.3	50.0	-28.6
サービス業	24.0	10.7	7.7	8.3

## 3 経営上の問題点

企業が抱える経営上の問題点は「**需要の停滞**」と「**人件費以外の経費の増加**」

「**需要の停滞**」が34.7%(43社)、「**人件費以外の経費の増加**」が24.2%(30社)「**利用者ニーズの変化**」が19.4%(24社)、「**人件費の増加**」12.9%(16社)、「**販売単価の低下・上昇難**」が11.3%(14社)、「**同業者進出**」が6.5%(8社)「**新規参入業者の増加**」が5.6%(7社)の企業が回答している。

総合(下段は調査数)	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回
需要の停滞	40	34	36	32	37	48	44	44	40	48	48	45	43
利用者ニーズの変化	25	26	21	26	28	31	24	23	33	28	27	30	24
販売単価の低下・上昇難	20	18	17	14	16	23	19	20	28	23	18	29	14
人件費以外の経費の増加	8	7	12	12	14	23	15	18	20	18	18	20	30
新規参入業者の増加	7	7	11	9	12	10	10	14	11	10	8	14	7
同業者の進出	7				10			7	5	13	8	9	8
人件費の増加	6	8	6	8	7	13	11	16	9	14	13	12	16
大型・中型店の進出による競争の激化		8	6			9	8	8	9	8		8	
購買力の地域域への流出				8				8	8	9		10	
その他							1	3	6	2	3	3	1



# 業種別の特徴

## 1 製造業(売上高・採算・資金繰りの悪化を受けて景況感は停滞。先行きも悪化か。)

景況感は6.0ポイント悪化しプラス8.3、と後退もプラス水準を維持。先行きも悪化懸念材料多い。経営上の課題は、「需要の停滞」や「人件費以外の経費の増加」など設備投資は冷え込んだ状態が長引いている。

業況判断DIは、売上額・採算・資金繰りともに大幅に悪化(今期売上額DIは3期連続悪化しマイナス8.3、採算DIは、マイナス16.7と。資金繰りDIは、マイナス16.7と9.6お悪化)してマイナスとなりましたが、業況DIはプラス8.3を維持しました。先行きは売上額・資金繰りの悪化から景況感は悪化見通し。業種別順位は同率2位から4位に後退。

3ヵ月後の業況見込みDIは、今期に比べて8.3ポイント悪化してプラス0.0となる見通しです。

売上額DIもマイナス16.7と8.4ポイント悪化し、資金繰りDIもマイナス25.0。来期採算見込みDIも、マイナス16.7の見通しです。

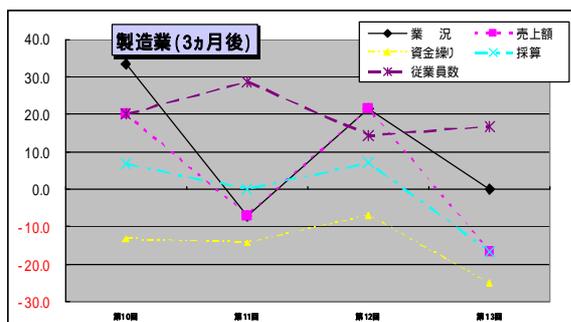
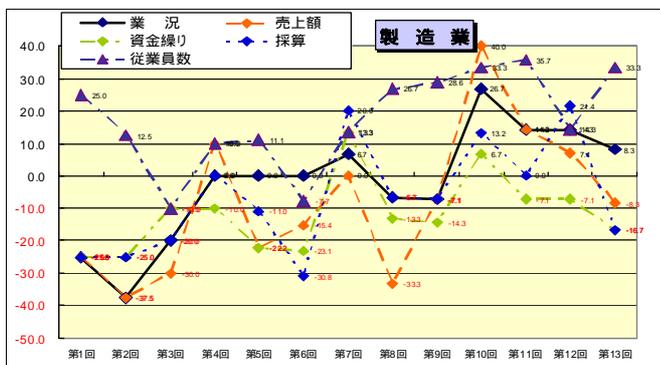
雇用状況を示す従業員数DIは、プラス33.3と19.0ポイント上昇し、従業員の人手不足感が進んでいる。来期はプラス16.7と前期なみとなるようです。調査6業種中、同率2位から同率1位となりました。

### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、OA機器に16.7%(2社)機械設備に8.3%(1社)の企業での設備投資が見られた。来期についての設備投資の計画がなく冷え込んだ状態が長引いている。

### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の第1位は「需要の停滞」と「人件費以外の経費の増加」で41.7%(各5社)、は「製品(加工)単価の停下・上昇難」などが33.3%(4社)で、3位など。前期に比べ「製品(加工)単価の停下・上昇難」が3社から4社に増加「人件費以外の経費の増加」は3社から5社に増加した。



業種	対前年比													3ヵ月後				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第10回	第11回	第12回	第13回	
製造業	-25.0	-37.5	-20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	-6.7	-7.1	26.7	14.3	14.3	8.3	33.3	-7.1	21.4	0.0	
経営状況	売上額	-25.0	-37.5	-30.0	10.0	-22.2	-15.4	0.0	-33.3	-7.1	40.0	14.3	7.1	-8.3	20.0	-7.1	21.4	-16.7
	資金繰り	-25.0	-25.0	-10.0	-10.0	-22.2	-23.1	13.3	-13.3	-14.3	6.7	-7.1	-7.1	-16.7	-13.3	-14.3	-7.1	-25.0
	採算	-25.0	-25.0	-20.0	0.0	-11.0	-30.8	20.0	-6.7	-7.1	13.2	0.0	21.4	-16.7	6.7	0.0	7.1	-16.7
	従業員数	25.0	12.5	-10.0	10.0	11.1	-7.7	13.3	26.7	28.6	33.3	35.7	14.3	33.3	20.0	28.6	14.3	16.7
設備投資の動向	OA機器	1	1	1	1			2	2	2	3	2	2	1	1			
	機械設備	1			1		1	1	1		2	1	1	2	3	1		
	車輛運搬具					1	3							1				
	建物						1	1										
	付帯施設				1	1												
	その他																	

## 2 建設業(売上高・採算・資金繰りの悪化から、景況感は大幅に悪化。設備投資は好調。)

景況感は28.6ポイント悪化し、先行きすべての指標でマイナスの見通し。

経営上の課題は、「需要の停滞」(民間需要の停滞が5社と官公需要の停滞が3社)「請負単価の低下・上昇難」(8社)など。設備投資は車両運搬具6社など4期ぶりに好調でした。

業況判断DIは、売上額DIが7.1ポイント悪化し、プラス0.0、採算DIは、14.5ポイント悪化してマイナス28.8、資金繰りDIも7.1ポイント悪化しましたが、景況感はプラス0.0とプラスを維持しました。業種別順位は6業種中、1位から同率5位と最下位に転落しました。

3ヶ月後の業況見込みDIは、先行きの不透明感もあり、今期に比べ21.4ポイント悪化し、マイナス21.4と大幅な悪化見通しです。見通しの内容としては、来期の売上見込みDIはマイナス21.4と今期に比べ大幅な悪化、来期の採算見込みDIもマイナス50.0と今期に比べ21.2ポイント悪化。来期資金繰りDIもマイナス21.4なっている。

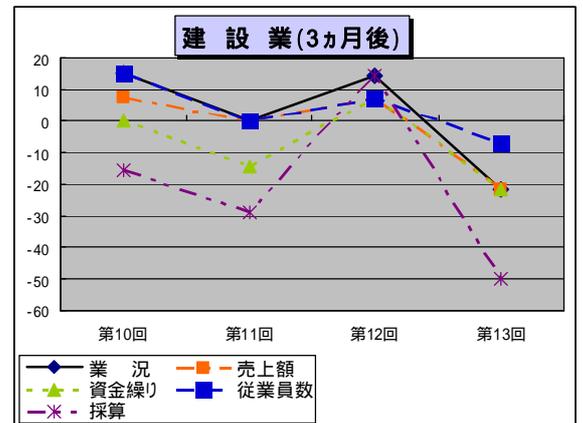
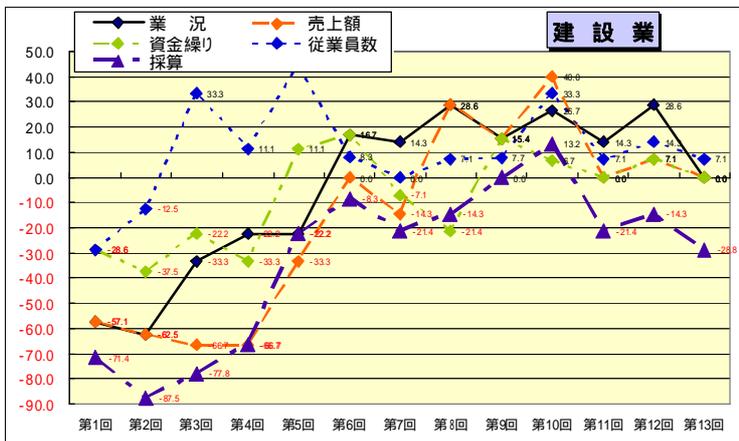
雇用状況を示す従業員数DIが、プラス7.1と人手不足の調整が進みました、来期に向かっては受注減にともない労働力の過剰かんがつよまる見込みです。調査6業種同率2位から4位に後退しました。

### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、車両運搬具28.6%(4社)と、OA機器が14.3%(2社)、機械設備と建物7.1%(各1社)の8件の投資が実施された。来期の投資についても、車両運搬具14.3%(2社)と建物等に7.1%(1社)の企業で投資計画があり。投資は好調に実施されました。

### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の第1位は「請負単価の低下・上昇難」57.1%(8社)「需要の停滞」(民間需要の停滞)を35.7%(5社)「官公需要の停滞」21.4%(3社)が8社(57.1%)で、第3位「人件費以外の経費の増加」が6社(42.9%)などと回答している。前期調査に比べ「人件費以外の経費の増加」が2社から6社に28.6%(4社)も増加し、「請負単価の低下・上昇難」が4社から8社に増加している。「大企業の進出による競争の激化」が3社から1社に減少となっている。



建設業	対前年比													3ヵ月後			
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第10回	第11回	第12回	第13回
業況	-57.1	-62.5	-33.3	-22.2	-22.2	16.7	14.3	28.6	15.4	26.7	14.3	28.6	0.0	15.4	0.0	14.3	-21.4
売上額	-57.1	-62.5	-66.7	-66.7	-33.3	0.0	-14.3	28.6	15.4	40.0	0.0	7.1	0.0	7.7	0.0	7.1	-21.4
資金繰り	-28.6	-37.5	-22.2	-33.3	11.1	16.7	-7.1	-21.4	15.4	6.7	0.0	7.1	0.0	0.0	-14.3	7.1	-21.4
採算	-71.4	-87.5	-77.8	-66.7	-22.2	-8.3	-21.4	-14.3	0.0	13.2	-21.4	-14.3	-28.8	-15.4	-28.6	14.3	-50.0
従業員数	-28.6	-12.5	33.3	11.1	44.4	8.3	0.0	7.1	7.7	33.3	7.1	14.3	7.1	15.4	0.0	7.1	-7.1
設備投資の動向																	
OA機器	2	1	2	1	1	1	3	2	1	3			2				
機械設備																	
車両運搬具	1	2	3	1		3	2	2	1	4		1	1	1		1	2
建物									1	1		1	1				
付帯施設				1	1										2	1	1
その他												1					

### 3 小売業(最寄品) (売上高改善したが、業況 DI は3期ぶりに悪化、先行きも悪化。)

「景況感は、0.0 と 14.3 ポイントと大幅に悪化、先行きも不透明で一層の悪化懸念か。」

経営上の課題は、「需要の停滞」と「利用者ニーズの変化」、設備投資は堅調となる。

業況判断 DI は、売上額 DI はプラス 5.0 と改善、採算 DI はマイナス 25.0 と 15.5 ポイント悪化。資金繰り DI はマイナス 15.0 と 10.2 ポイント悪化したのに伴い、景況感はプラス 0.0 と 14.3 ポイント悪化した。業種別順位では 6 業種中同率 2 位から同率 5 位になりました。

3 カ月後の業況見込み DI は、売上額 DI マイナス 10.0 と大幅な悪化、採算・資金繰りについては横ばい見通しから、景況感はマイナス 5.0 と今期に比べて 5.0 ポイント悪化見通しをしております。

雇用状況を示す従業員数 DI は、4.5 ポイント低下し、プラス 5.0 と従業員(雇用)調整が進みました。来期に向かっては均衡のとれた状況とみこみます。調査 6 業種中、6 位から 5 位となりました。

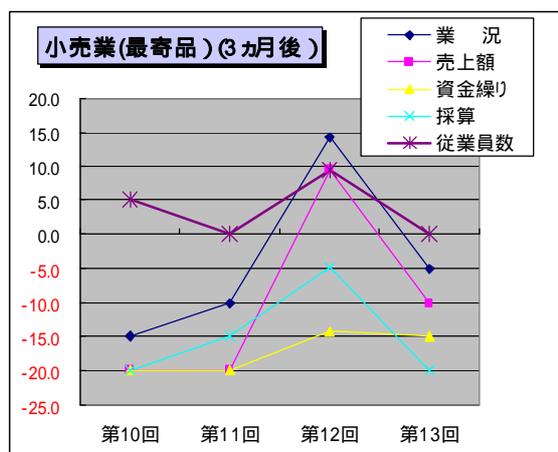
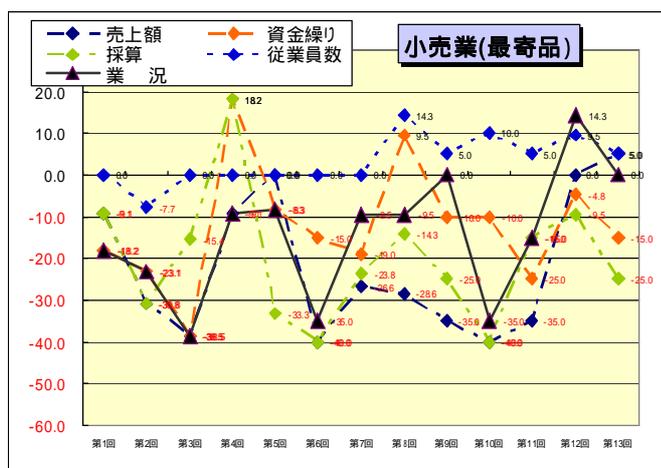
#### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、調査 20 社のうち、OA 機器と機械設備、が各 3 社 (15.0%) 建物等が各 5.0% (1 社)、の企業が投資した。来期の投資については、機械設備、車両運搬具、建物等に 4.8% (各 1 社) の企業に投資計画があり、企業と投資活動は弱い動きが見られる。

#### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の第 1 位「需要の停滞」「利用者ニーズの変化」が 25.0% (各 7 社)、企業で回答し、第 3 位は「人件費以外の経費の増加」が 20.0% (4 社) などが、企業で抱えている問題と回答した。

前回調査に比べて、「需要の停滞」が 2 社減少、「販売単価の低下・上昇難」が 4 社から 2 社に 10.0% (2 社) の減少、「利用者ニーズの変化」が 5 社から 7 社に 2 社増加した。



小売業 (最寄品)	対前年比													3ヵ月後				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第10回	第11回	第12回	第13回	
業況	-18.2	-23.1	-38.5	-9.1	-8.3	-35.0	-9.5	-9.5	0.0	-35.0	-15.0	14.3	0.0	-15.0	-10.0	14.3	-5.0	
売上額	-9.1	-30.8	-38.5	-9.1	0.0	-40.0	-26.6	-28.6	-35.0	-40.0	-35.0	0.0	5.0	-20.0	-20.0	9.5	-10.0	
資金繰り	-18.2	-23.1	-38.5	18.2	-8.3	-15.0	-19.0	9.5	-10.0	-10.0	-25.0	-4.8	-15.0	-20.0	-20.0	-14.3	-15.0	
採算	-9.1	-30.8	-15.4	18.2	-33.3	-40.0	-23.8	-14.3	-25.0	-40.0	-15.0	-9.5	-25.0	-20.0	-15.0	-4.8	-20.0	
従業員数	0.0	-7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	5.0	10.0	5.0	9.5	5.0	5.0	0.0	9.5	0.0	
設備投資の動向	OA機器	2	1			2	2		1	1	1	1	3	1	3			
	機械設備		1	1		1	3	1	2	1	1	1	3	2	2		1	
	車両運搬具						1	1	1	2	3	2	1	1	1	1	1	1
	建物	1	1				1	2	1	1	2	2	1		1			1
	付帯施設		1	1														
	その他																	

## 4 小売業(買回品)(売上額・採算の改善により業況DIは2期連続改善しプラスに転じる。先行きは不透明)

景況感は売上額と採算・資金繰りの改善をうけて2期連続改善しプラス11.5とプラスに転じました。先行きは採算面など不透明な見通し。

経営上の課題は「需要の停滞」や「利用者ニーズの変化」・「販売単価の低下・上昇難」。設備投資は低調でした。

業況判断DIは、売上額DIは18.4ポイント改善し、プラス11.5となる。採算DIはプラス3.8と14.1ポイント改善。資金繰りDIは7.7ポイント改善しプラス7.7となり、景況感は2期連続改善しプラス11.5と大幅に改善しました。業種別順位では6位から3位に。

3ヵ月後の業況見込みDIは来期の売上見込みDIはプラス3.8と今期に比べ7.7ポイントの悪化、来期の採算見通しDIはマイナス3.8と7.6ポイント悪化、資金繰りDIは横ばいのプラス7.7を予想しています。これを受けて景況感は、プラス0.0と今期に比べ11.5ポイント悪化するとの見通しです。

雇用状況を示す従業員数DIは、マイナス3.8と従業員は調整終了し均衡の取れた状況となり、調査6業種中同率3位から6位になりました。来期の状況もプラスの0.0と均衡の状態を示している。

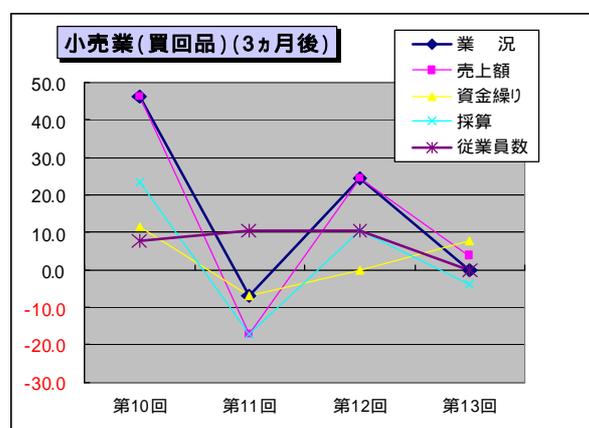
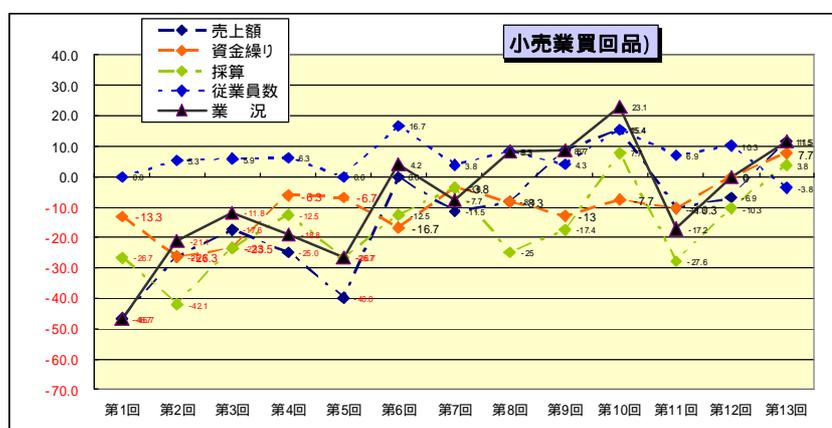
### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、建物とその他に7.7%(各2社)の企業が投資を実施した。来期の投資については、OA機器とその他に3.4%(各1社)、の企業で投資計画が見られるのみと低調である。

### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の第1位「需要の停滞」で34.6%(9社)、第2位「利用者ニーズの変化」26.9%(7社)について第3位が「販売単価の低下・上昇難」で19.2%(5社)。ついて「購買力の他地域への流出」が15.4%(4社)などである。

前回調査に比べて、「需要の停滞」は11社から9社へと2社(7.7%)減少、「販売単価の低下・上昇難」は10社から5社に減少し、「利用者ニーズの変化」が7社から6社と1社減少した。



小売業(買回品)	対前年比													3ヵ月後				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第10回	第11回	第12回	第13回	
業況	-46.7	-21.1	-11.8	-18.8	-26.7	4.2	-7.7	8.3	8.7	23.1	-17.2	0	11.5	46.2	-6.9	24.1	0.0	
経営状況	売上額	-46.7	-26.3	-17.6	-25.0	-40.0	0.0	-11.5	-8.3	8.7	15.4	-10.3	-6.9	11.5	46.2	-17.2	24.1	3.8
	資金繰り	-13.3	-26.3	-23.5	-6.3	-6.7	-16.7	-3.8	-8.3	-13	-7.7	-10.3	0	7.7	11.5	-6.9	0.0	7.7
	採算	-26.7	-42.1	-23.5	-12.5	-26.7	-12.5	-3.8	-25	-17.4	7.7	-27.6	-10.3	3.8	23.1	-17.2	10.3	-3.8
	従業員数	0.0	5.3	5.9	6.3	0.0	16.7	3.8	8.3	4.3	15.4	6.9	10.3	-3.8	7.7	10.3	10.3	0.0
設備投資の動向	OA機器		3	2	1	1	1	3	3	4	3				2	2		1
	機械設備					1			1			1						
	車両運搬具	1	1	3	1	1					2	1	2			1		
	建物				1	1						1	1	2	3		1	
	付帯施設	1																
	その他												2					

## 5 飲食業 (売上額・採算・業況 DI は改善、来期大幅に悪化しマックスに転落か？。)

景況感は6.1ポイント改善してプラス17.9。先行きはマックスに転落見通しを示す。

経営上の課題は「需要の停滞」や「人件費以外の経費増加」、「同業者の進出」など  
設備投資は弱い動きが見える。

業況判断 DI は、売上額 DI もプラス17.9と15ポイント改善した。採算 DI は0.0と8.8ポイント改善した。資金繰り DI は、マックス14.3と14.3ポイント悪化した。前期に比べて6.1ポイント改善してプラス17.9。業種別順位では、5位から2位に。

3ヵ月後の業況見込み DI はマックス28.6と今期と比べ46.5ポイントも悪化の見通し。来期売上額見込み DI もマックス28.6と、大幅に悪化を予想。来期の採算見通し DI もマックス25.0と悪化。資金繰り DI も7.1ポイント悪化マックス21.4の見通しである。

雇用状況を示す従業員数 DI は売上げ額の改善もあって、プラス25.0と労働力の不足感が強い状態が続いているが、来期に向かい雇用調整を進める動きを示す。調査6業種中、第2位の結果である。

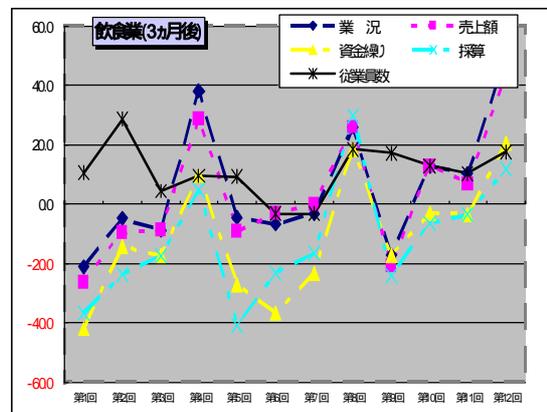
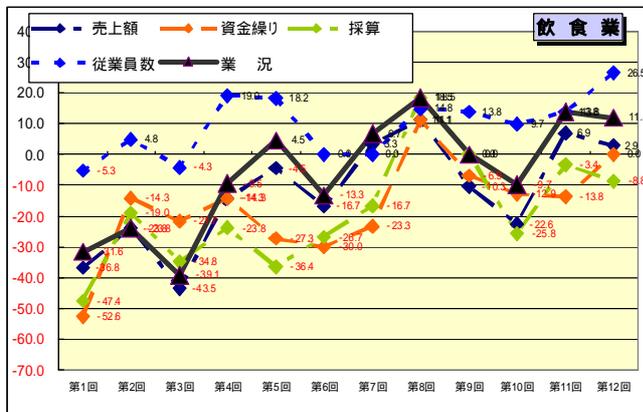
### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、建物等2.9%(1社)、OA機器2.9%(1社)、車両運搬具が、2.9%(1社)の企業で投資が見られた。来期の投資でも、OA機器8.8%(3社)、機械設備、車両運搬具、建物等が各1社(2.9%)の投資計画があるのみと2期連続の低調。

### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の、第1位「需要の停滞」で23.5%(8社)、第2位「新規参入業者の増加」20.6%(7社)、第3位「利用者ニーズの変化」17.6%(6社)次いで「販売単価の低下・上昇難」14.7%(5社)次いで「人件費の増加」と「同業者の進出」11.8%(各4社)などである。

前回調査に比べて「需要の停滞」が13社から8社に21.3%(5社)減少し、「販売単価の低下・上昇難」が7社か3社に1.9%(4社)減少、「利用者ニーズの変化」が3社から7社に11.3%(4社)増加と「人件費以外の経費の増加」が4社から3社に5.0%(1社)減少した。



飲食業	対前年比													3ヵ月後				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第10回	第11回	第12回	第13回	
業況	-31.6	-23.8	-39.1	-9.5	4.5	-13.3	6.7	18.5	0.0	-9.7	13.8	11.8	17.9	12.9	10.3	50.0	-28.6	
経営状況																		
売上額	-36.8	-23.8	-43.5	-14.3	-4.5	-16.7	3.3	11.1	-10.3	-22.6	6.9	2.9	17.9	12.9	6.9	44.1	-28.6	
資金繰り	-52.6	-14.3	-21.7	-14.3	-27.3	-30.0	-23.3	11.1	-6.9	-12.9	-13.8	0.0	-14.3	-3.2	-3.4	20.6	-21.4	
採算	-47.4	-19.0	-34.8	-23.8	-36.4	-26.7	-16.7	18.5	0.0	-25.8	-3.4	-8.8	0.0	-6.5	-3.4	11.8	-25.0	
従業員数	-5.3	4.8	-4.3	19.0	18.2	0.0	0.0	14.8	13.8	9.7	13.8	26.5	25.0	12.9	10.3	17.6	10.7	
設備投資の動向																		
OA機器	2			1	1					3	2	1	2	3	1	3		
機械設備	1	2	1		4	6		2	2	4	4		4	4	4	1	4	
車両運搬具	1		1	1	1		1		2	3	1	1	2	1	1	1		
建物					1	1	1	1	3	4	3	1		4		1	3	
付帯施設	3		1		2													
その他								1		1	0	3						

## 6 サービス業(売上額の大幅中以前により、業況DIは3期ぶりに改善。先行き悪化懸念)

景況感は3期ぶりに21.2ポイント改善してプラス25.0となるが、先行きは不安感を示す。

経営上の課題は「人件費以外の経費の増加」や「利用者ニーズの変化」と「人件費の増加」  
設備投資は先行き悪化懸念予想から手控えが見られる。

業況判断DIは、売上高DIは改善してプラス25.0となる、採算DIが改善したが3期連続してマイナス8.3と、7.1ポイントの改善。資金繰りDIもプラス4.2と11.9ポイント改善した、3期ぶりに改善してプラス25.0と、21.2ポイントの改善。業種別順位で第5位から第1位になりました。

3ヵ月後の業況見込みDIはプラス8.3と16.7ポイント悪化。来期売上額見込みDIもマイナス4.2。来期の採算見通しDIはマイナス8.3と横ばいの見通しを示し、資金繰りDIもマイナス4.2の見通しを示し、すべての指標で悪化懸念。

雇用状況を示す従業員数DIは、21.8ポイント上昇してプラス33.3と労働力の人手不足感が強い。来期に向けても不足感が強い傾向が続いている。調査6業種中4位から1位。

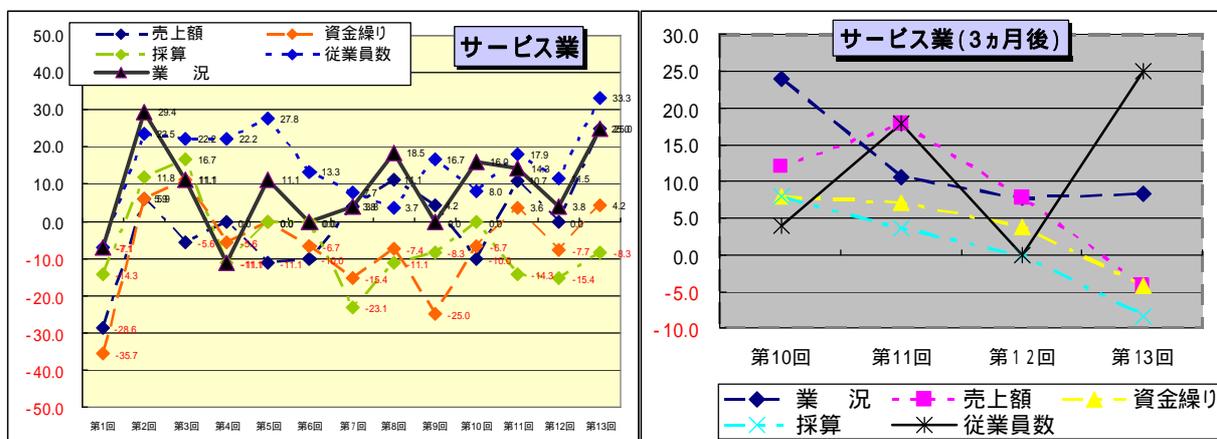
### ・ 設備投資の動向

設備投資の動向は、調査24社のうち、OA機器16.7%(4社) 車輛運搬具が8.3%(2社)、機械設備4.2%(1社)の企業しか投資がみられなかった。来期の投資計画については、OA機器8.3%(2社)、車輛運搬具が7.7%(2社)の投資計画が見られる。景気悪化懸念から手控えがみられる。

### ・ 経営上の問題点

経営上の問題点の、第1位、「人件費以外の経費の増加」が25.0%(6社)、「利用者ニーズの変化」「人件費の増加」が20.8%(5社)。3位は「需要の停滞」(4社)、などが経営上の課題である。

前回調査に比べ「利用者ニーズの変化」は8社から5社、3社(12.5%)減少、「需要の停滞」も3社から4社に15.5%(1社)減少した。ついで「人件費以外の経費の増加」が5社から6社に、(1社)4.2%増加、「販売価格の低下・上昇難」は3社から2社に4.2%減少した



サービス業	対前年比													3ヵ月後			
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第10回	第11回	第12回	第13回
業況	-7.1	29.4	11.1	-11.1	11.1	0.0	3.8	18.5	0.0	16.0	14.3	3.8	25.0	24.0	10.7	7.7	8.3
売上額	-28.6	5.9	-5.6	0.0	-11.1	-10.0	3.8	11.1	4.2	-10.0	10.7	0.0	25.0	12.0	17.9	7.7	-4.2
資金繰り	-35.7	5.9	11.1	-5.6	0.0	-6.7	-15.4	-7.4	-25.0	-6.7	3.6	-7.7	4.2	8.0	7.1	3.8	-4.2
採算	-14.3	11.8	16.7	-11.1	0.0	0.0	-23.1	-11.1	-8.3	0.0	-14.3	-15.4	-8.3	8.0	3.6	0.0	-8.3
従業員数	-7.1	23.5	22.2	22.2	27.8	13.3	7.7	3.7	16.7	8.0	17.9	11.5	33.3	4.0	17.9	0.0	25.0
設備投資の動向																	
OA機器	2	1	2	3	3	2	4	2	1	3	3	0	4	2	5	2	2
機械設備				1	1	1	2	1	1	2	2	1	1	1	2		
車輛運搬具	1	1	1	2	1	1	2			2				2	1	2	
建物											2						
付帯施設		1	2	1													
その他																	